



熊本大学におけるIdp構築 と今後の展望

熊本大学総合情報基盤センター
杉谷賢一，久保田真一郎

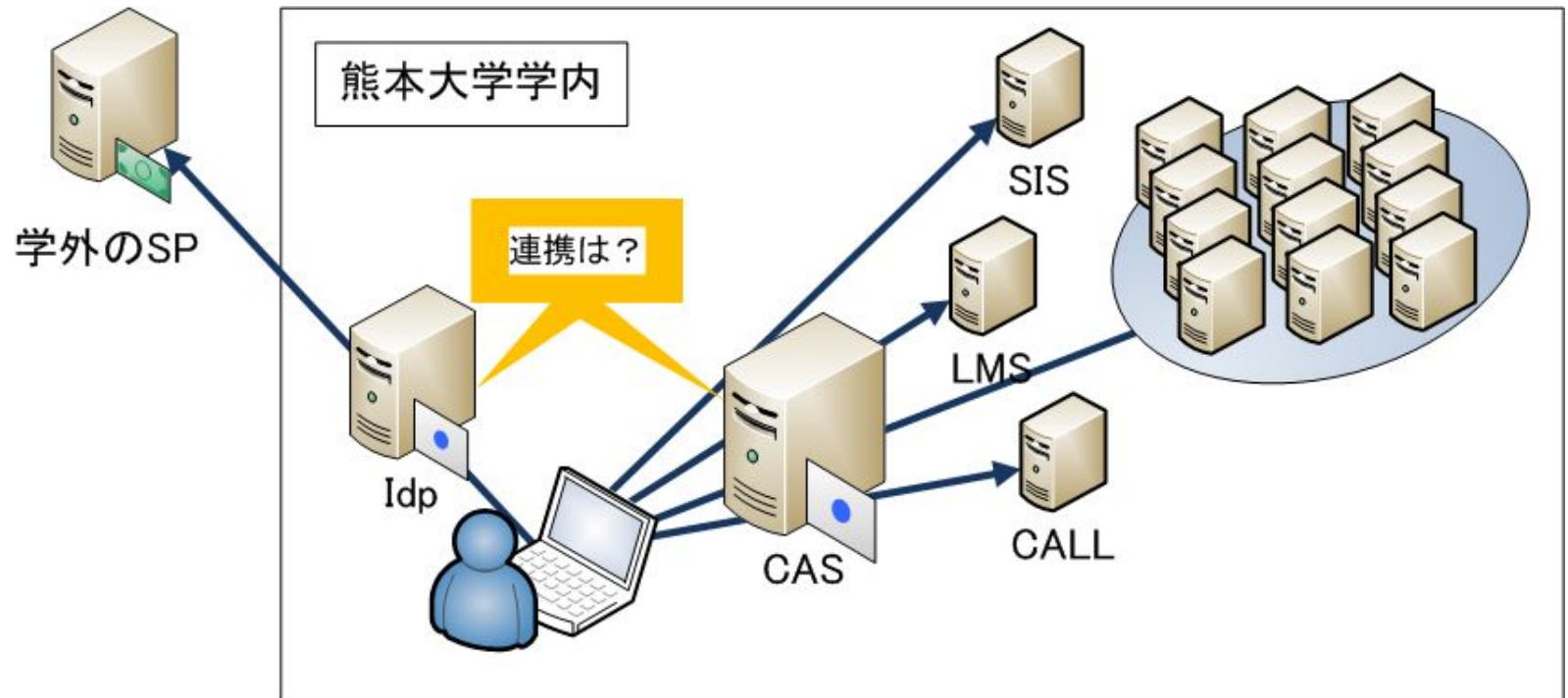
シングルサインオンに関する 熊本大学の取り組み

- uPortal+CASによる「熊本大学ポータル」の運用
(2006年から)
 - 各サービスをSSO(シングルサインオン)で利用
 - SOSEKI(SIS = Student Information System)
 - CALL(Computer Assisted Language Learning)
 - WebCT(LMS = Learning Management System)
 - 現在は上記サービスを含め15のWebサービスに対してシングルサインオンを実現
- 熊本大学にShibbolethは必要か？

熊本大学にとってShibbolethは必要である

- CASは組織内で利用
- Shibbolethは異なるドメインのサービスを利用するときに利用
 - 他大学のサービスを利用するときのSSO
 - 政府機関のサービスを利用するときのSSO
 - 学外のサービスを利用するときのSSO
 - Google Apps
 - Elsevier ScienceDirect
 - Apple iTunesU
 - など多数

熊本大学におけるShibboleth



- Idp (= Identity Provider)
- SP (= Service Provider)

Idpの構築

- NIIから配布された
 - VMwareイメージを利用
 - 構築手順書を利用→ おかげで容易に導入ができた
- テストアカウントによる動作確認
- メタデータ自動更新設定を行った
- 認証DBの変換(予定)
- SAMLを利用し, 認証IDをCASと共有(予定)

今後の展望としては

- CASとShibbolethの共存
 - SAML2.0による共有
 - CASをバージョン3へ
- SPの構築
 - 今回の実証実験では着手できなかった
 - HTMLからサーブレットまでの動作を確認
 - 熊本大学独自のSP(熊本大学だからできること)